

くろしお協力隊に聞く



【今月の担当者】
地域おこし協力隊
(缶詰製作所担当)
ふくもと まゆ
福本 麻倫

Q 着任から1年が経過しました。お仕事には慣れましたか？

ハサップ

A だいぶ慣れました。大きなものとして、今年9月には「高知県版HACCP（高知県食品総合衛生管理認証制度）」の認証を受けることができました。工場内のいろいろなものごとのリセット、アップデートに貢献できたかなと思います。今後HACCPを維持するには従業員の皆さんの力が必要なので、学びの機会になればと従業員への衛生教育も始めていく予定です。また、イベントでの缶詰販売は変わらず行っています。県外では「珍しい」、「初めて見た」と言っていただくことが多く、県内では地元の方から声をかけていただいたり、企業の方からコラボのお誘いをいただいたりもします。道の駅などに納品に行くことも増えて、直接お客さんに缶詰の説明をしたり、皆さんの顔を見る機会は増えました。



マルシェで演奏する福本さん

Q 最近プライベートでどんなことをしていますか？

A 同じ協力隊の西川さんが運営する古民家をリノベーションしたゲストハウスで開催されているマルシェやご飯会などに参加しています。地元の人と移住者が関われるイベントのため、今まで出会わなかった人に出会えるし、地元の人とも話せる。そういうつながりが増えていくと、移住してきて良かったなと思います。今後、ボードゲーム会や星空観測会など、地元の人を巻き込めてかつ「遊べてしゃべれて楽しい」活動もしてみたいです。

協力隊から一言！

黒潮町でのんびり生活もエンジョイしていきます！

Kramer's Corner クレームのコーナー



今月のテーマ

みんなでアメリカのハロウィン
習慣を楽しみました！

10月26日に第3回黒潮町ハロウィン会を開催しました。そこで黒潮町の小学生と保育園児が仮装し、ハロウィンの象徴であるジャック・オ・ランタンを作りました。皆さんはジャック・オ・ランタンのことを知っていますか。ジャック・オ・ランタンとは、くり抜いたカボチャの提灯です。カボチャの上部に穴を開け、種子と中身を取り出し、顔やデザインを彫り、最後にろうそくを中に入れたら完成。そして玄関に置いたらハロウィンの夜に出てくる悪霊を追い払うと昔から言われています。今年のハロウィン会では、子どもたちが創造力を発揮し素晴らしいジャック・オ・ランタンを作りました。怖い顔のもの、かわいい笑顔のもの、耳や角のついたものまでありました。きっと彼らの家の強い魔除けと素敵なハロウィン飾りになったでしょう。

僕がアメリカに住んでいた子どもの頃、毎年のハロウィンパーティーで家族と一緒にジャック・オ・ランタンを作っていました。黒潮町に来たら、子どもの僕がいつも心待ちにしていたこの楽しいハロウィン習慣をこの人たちと分かち合いたいと思い、国際交流員としての初めての企画をハロウィン会にしました。そして皆さんのおかげでこのイベントは今年で3年目を迎えました。毎回、子どもたちのかわいい仮装やユニークなジャック・オ・ランタンを見るのが好きだし、友だちや家族と一緒に一生懸命カボチャを彫っている姿を見ると、自分のいいハロウィンの思い出が浮かんできます。このような文化交流はこの仕事の本当に好きなおところです。来年また会いましょう、第4回のハロウィン会で！



ハロウィン会

今月の使える！英語

アンダー ザ ウェザー
Under the weather

「風邪がみ」という意味で、「I'm under the weather.」または「I feel under the weather.」という風に使います。もう12月になって寒くなってきたので、この風邪が引きやすい季節の変わり目にunder the weatherにならないよう、皆さん十分体に気をつけてください。

